

富山県総合計画審議会未来部会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年1月25日（水）13:30～15:30
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員10名、専門委員8名 計18名
- 4 主な意見

(1) 結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり

＜切れ目のない支援＞

- 企業内にも男性の独身が多く、危機感を持っている。結婚支援は、いろいろなことをやって初めて、成果に結びつくと思う。
- 子どもを持つ人生を望む場合は、若年期からイメージを膨らませることが必要。キャリアを積んで気が付いた時には、高齢出産と言われる年齢に達していることがある。
- 子育て支援の優良事例が伝わっていないのではないか。「企業子宝率」に基づく優良事例を表彰する取組みは良いが、零細事業者は実践するのが大変。
- 人口は全ての基本であり、他県では出産祝金、医療費・保育料軽減など手厚い支援で出生率を一気に上げた事例もあり、思い切った対策が必要。
- 家庭、地域を巻き込んだ子育て支援の実施には県と市町村との連携を密にするとともに、家庭・地域で子育て支援を行う既存団体の活動促進が重要。

＜仕事と子育てを両立できる環境づくり＞

- 依然として夫が外で働き、妻は家庭を守るという考え方が強く、男性が子育てに参加するのが普通という考え方へのマインドチェンジが大切。
- まだまだ父親が家事や家庭や子育てに関わることができる時間が少ない。ワークライフバランスのためのサポートの仕方を、意識の部分から醸成していくことが必要。
- 母親・父親が不安なとき、孤立しそうな時に支えるためには、産官学金の連携が重要。40代の母親の負担が一番重いという統計もあり、サポートが必要。
- 富山県は中小企業の割合が非常に多く、企業、上司の理解の中でも、仕事と子育ての両立支援制度を普及していくことが重要。

(2) 真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上

＜学校教育＞

- 「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」とあるが、学校教育にウェイトが行き過ぎている。真の人間力のどのあたりを家庭が担うのかということも含め、連携を改めて見直す必要がある。
- 子どもの教育には、教師のみではなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーといった複数職種による支援が重要であり、配置の充実が求められる。
- 学校の先生、養護教諭も本当に忙しく、負担が増加。子どもが健やかな成長のために、長い時間を過ごす学校にもう少し人とお金をかけることが重要。

＜子どもの可能性を伸ばす教育、生涯学習＞

- 基本的な読み書きそろばんの考え方が大切。デジタルに頼り過ぎると自分の力で考える能力が身につかない。
- SNSなどのネット時代にあって、子ども達には長い文章を読解し、人に説明する力をつけさせることが今まで以上に重要。学力向上には新聞など活字を使った教育が有効。
- 「社会に学ぶ14歳の挑戦」は、コミュニケーションや、挨拶の仕方、人と協力することの重要性、責任感、充実感を得られる貴重な体験であり、継続してほしい。
- 生涯学習は、学習者の活躍の場の提供が必要。その意味で企業との連携も大切である。
- ふるさと学習は、活字だけではなく、地域、家庭、学校と企業という連携の形で、次世代に引き継ぐという観点からフェイストゥフェイスで繋がっていくことが大切。

(3) 文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進

<スポーツの振興>

- 競技力向上の取組み成果は少しずつ出てきている。掲げている施策を継続・拡充していくことが大切。東京オリンピックは目標ではなく通過点と考えて記述を整理。
- 県内出身のトップアスリートが退いた後に、指導者として活躍できる場を県内で提供できれば、高いレベルでの指導ができ、選手の育成につながる。
- スポーツを楽しむ環境づくりについては、いかに運動していない人に興味を持ってもらい、運動を始めるきっかけをつくるかが大切である。
- 子ども、大人、高齢者まで、楽しめるような全天候型の新たな文化・スポーツ施設の建設を要望。

<文化の振興>

- 利賀のSCOTやとやま世界子ども舞台芸術祭は、県内よりもむしろ世界での知名度が高い。県内の一般の子どもの参加がまだ足りず、学校との連携が必要。
- 子どもたちが早いうちにアートに触れるワークショップなどの事業を全県的に行うことが大切。
- 富山県美術館では地元アーティストによるアートとデザインの新たな時代が始まることを期待。
- 高志の国文学館にある多数の収蔵品の利用を進めることが重要。同人誌会などの力を取り込むことも必要。

<県民活動の推進>

- ボランティア活動を行ううえで知っておくべきことに気付いたと参加者から好評だった「高校生のためのボランティア講座」がなくなったことは残念。
- これまで学校教育の中心はボランティア「体験」であったが、実際に「理解」するための授業が十分でない。
- 避難訓練はよく行われているが、自分の身を守った後に被災者をどう支援するかという部分が不足。若い世代ができることを避難訓練に盛り込むことが重要。
- 女性がリーダーとなるには、続く女性を引っ張っていくという意識を持つことが重要。20-30代の女性をいかに上の役職にあげるかという課題については、企業側努力も必要。

(4) ふるさとの魅力を活かした地域づくり

<景観づくり>

- 景観づくりには、県民が美しいと感じてもらうこと、現状が恥ずかしいものではないかを自ら考えてもらうことが重要である。

(5) その他全般

- 子どもだけでなく、今後高齢者になる大人にとっても明るい未来がないと年を取る意味が無い。私たちにとって、どんな未来が待ち受けているのかということ、希望として計画に組み込むとよいのでは。
- 施策はたくさんメニュー化されているが、掲げた目標の実施体制、運用について、現時点でどのようなことが考えられるのかということ、是非盛り込んでほしい。